

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム ユニティー旭神		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	平成26年1月2日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902504-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の心と身体の健康が維持されながら、縫物や床掃除などの「私の出来ること」を行って満足出来る生活を送って頂いています。また、地域での行事に参加したり用事を済ませに近くまで外出して社会との関わりを持っていただいています。平成25年夏より、グループホームでのノンアルコールパーティを設けて飲み会の雰囲気を楽しんでいただく取り組みを行っています。アルコール摂取については、その事業所の入居者様の状態により厳禁となっているところもありますが、当事業所においては入居者様の生活歴とご家族の御意見を取り入れながら実施いたしました。「北海道プレミアムの会」として毎月24日前後に開催しています。開設8年を迎えようとしていますが、開設時から入居されている方が18名中7名いらっしゃって永く住み続けていただいている、両ユニット合わせて平均入居年数は4年10カ月程になります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームユニティー旭神は、近くに旭川医科大学がある新興住宅街に位置している。地域の方々とは、ゴミ拾いや夏祭り・アイスキャンドル作りなど色々な行事に積極的に参加し、一緒に取り組んでいる。開設8年というだけでなく、それらもあって地域の方々からの認知度も高い。運営法人は道内に数多くの福祉施設を有しており、研修や交流を通して刺激を受けることが多い。当ホームも1階が通所施設で、2・3階がさんご館・こはく館という名の複合型グループホームとなっている。その名のようにお互いのユニットの職員は磨き合い質の向上を目指している。例えば職員一人ひとりが1年間の目標を立て、名前入りで掲示してあることにより、日々の振り返りや、お互いの戒めとしても役立っている。ホームの指針として自己決定しやすいように支援することを掲げ、手助けしすぎない寄り添う介護を心がけている。その中で「待つ」事の大変さを実感しながら入居者と一緒に歩んでいる姿勢をうかがうことができ、今後の活躍に益々の期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(こはく館アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の一つに「地域活動への参加を積極的に支援し地域に根ざしたサービスを提供」とあり、掲示して会議で共有しています。	自立を支援するという基本理念や運営方針は、目につく場所に掲示されており、具現化するための福祉三原則を定期的な会議に唱和するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っていて、回覧版を回したり清掃活動や交通安全キャンペーン等の催事に協力をしています。	町内会の行事(夏祭り・焼き肉交流会・ゴミ拾い)には積極的に参加し、町内会からの認知度も高い。夏場は近くのスーパーやコンビニに、歩行訓練を兼ね散歩に出かけている。こもりがちの冬場もアイスキャンドル作りに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のグループホームの職員の交流会に参加していますが、地域住民に向けて勉強会や講習会は開いていませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催がなく話し合いの機会がもてませんでした。	管理者の体調やそれぞれの時間設定がうまくいかず開催に至っていなかったが、時間調整がつき今月末に開催予定である。	地域密着型サービスとして、事業所・職員・地域が成長していく為にこの会議は不可欠のものである。行事予定に組み込むなど定期的開催し、支えられ上手なグループホームになられることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	旭川市とはサービス体制の変更時に相談して助言を頂いています。5月に実地指導を受けてサービス内容の確認をしています。	地域包括支援センターとは空き情報や入居者の暮らしぶりを伝えるなど、連携を深めている。また同じく地域包括支援センターが主となって見学会や認知症サポーター養成講座の研修にと合同で取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の議事録を職員に周知したり、ベッドの手すりや施錠に頼らず鈴を工夫してつけたりして、事故防止検討に合わせて考え取り組んでいます。	身体拘束マニュアルが整備され、自らのケアの振り返りとして「気づきチェック表」を使い点検している。指導ではなく入居者が抑圧感を抱かぬように配慮している。危険な行為が発生した場合は、ケアプランに載せ目標とし、日々のケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても委員会の議事録を回覧しています。言葉での暴力についても日頃のケアの中ではその都度改めるように注意しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の講演会で「成年後見制度」について案内が来たときは周知して参加の呼びかけをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約はありませんが、日頃は面会時や通院時、電話連絡時に質問を受け付けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には入居者様もご家族も出席されて運営について意見を求めてきました。	ご家族訪問時には積極的に声をかけ、言いやすい雰囲気づくりに努めている。毎月送付されている広報紙は、家族にとっては待ち遠しい楽しみでもあるといわれている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を開き、職員の考えや提案を聴き「まずはやってみる」ことを実践しています。	スタッフ間連絡ノートを作り、連絡だけでなく普段のケアについての疑問や困りごとを載せアドバイスをもらい、気づきやそのアイデアを運営に取り入れている。また自らの年間目標を定め、実施状況の確認に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場に入って共に介護したり、残業時間を把握し人事考課を基に働く環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修や1年研修に参加してもらったり、職員自らが講師となってケアの勉強会を開催してスキルアップにつなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成25年度は地域の他グループホーム職員の交流会が2回開かれ、お互いの職場の様子を聴いたり認知症サポーター養成講座を開いたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	平成23年9月以降新規入居者様はいませんが、継続して表情や行動、発言の内容で思いや考えを汲み取り安心して暮らせるように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	平成23年9月以降新規入居者様はいませんが、継続して表情や行動、発言の内容で思いや考えを汲み取り安心して暮らせるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	平成23年9月以降新規入居者様はいませんが、継続して表情や行動、発言の内容で思いや考えを汲み取り安心して暮らせるように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に床拭きや手すり拭き、食器拭き、テーブル拭き、縫物をして生活をしています。また、入居者様に食べたい物やしたい事を決めていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お盆やお正月、また外出をされた後の様子(喜んでる姿)をお伝えして家族も喜んで頂いて、共に過ごす時間が増える様に支援しています。また、相談をして一緒に考えてケアにつなげています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夜の飲み会に誘われる入居者様がいますが、迎えるに來られた方に体調をお伝えして外出の支援をお願いしています。	なじみの知人や友人とは継続的に交流ができるよう支援し、行事外出やどんど焼きなどは家族と相談しながら同行支援するなど、生活習慣も大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングではソファーに座って歌を歌ったり、お話をしたり洗濯物をたたんでいただいたりできるように場を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	平成20年に退去された方が今でも遊びに来られ、一緒に昼食を召しあがって頂いています。また、平成20年に亡くなられた入居者様のご家族からの年賀状も頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上手く言葉に出来ない方でも、立ちあがって歩き出す時には傍に駆け寄り行こうとしているところについて行きます。	基本はセンター方式であるが、日々の記録の他に日々の行動や表情からくみ取るために気づきノートを活用し、経過を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を活用して入居前までの生活を知ったり、「できることできないことシート」で経過を追っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録にはプランの実施記録の他に言動の記録を行い、毎月1回はご家族に「毎月の様子」としてまとめて把握するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	電話や面会時にご家族に報告と相談をしてケアプランの修正について意見を伺って、ミーティングでもスタッフの考えを取り入れながらケアプランを作成しています。	3か月毎に見直しをかけ、毎月ミーティングにて目標の推移を確認している。ケース記録に気づきを加えることで連動できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケース記録」に個別の記録をしてケアの実践状況を一目で見えて解るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のディサービスの催しに呼ばれて交流を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の芸能発表会を見に行ったり、地域の方が訪問してくれてアコーディオン演奏をしてくれたりして楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族と本人の希望に沿うようにしています。また、かかりつけ以外の科を相談しながら決めて受診しています。	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行受診となっているが、代行受診や往診依頼など臨機応変に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤していますので、排便の様子やバイタルサイン異常、痛みや訴えの内容など随時報告して、受診の判断をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を作成して申し送りを行っています。また、入院中も様子を伺い、ご家族の意向を聴きとって介護・看護につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、方向性についてどのようにお考えなのか日頃よりうかがっていますが、状況が変化した都度、医師とご家族とホームとで話し合うようにしています。	本人・家族の意向を確認し、随時意思を確認しながら取り組んでいる。またそのためにも終末期医療などの研修には積極的に参加し、事業所として対応すべきケアについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルは見やすいところに掲示しています。また、普通救命講習を受ける機会をつくります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(年2回)の訓練を行っていますが、今年のご近所の方の都合が合わず参加されています。	マニュアルを作成し、避難訓練を行っている。連絡網も整備され、町内の方々にはメガホンを使って知らせるようにしている。自主点検チェック表を使い火災を出さない事を常に心がけている。	火災だけでなく、地震・停電時などの不測の事態にすぐ対応できる支援体制が必要であり、その為の話し合いや備蓄品の準備などに組み込まれることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の出来ることを支援し「ありがとうございます」と伝え、出来ない事をお願いしたり否定することのないように対応しています。	定期的にマナー研修をし、基本理念でもある自己決定しやすい言葉かけについて学んでいる。個人情報も鍵のかかる書庫を使用し、取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのように考えているのか伺って、解らないようでしたら二者選択できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調に合わせて過ごし方をかえています。例えば、食事時間をずらしたり入浴の順番や休憩の取り方を入居者様に合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所には櫛を備えており、乱れた時は直したり入浴後も使用できるようにしています。また、男性入居者様のシェーバーの充電も忘れずにを行っています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	枝豆を枝から取り、ゆでてさやから豆を出す作業や、ご飯をつぶして丸めたり、おやつも一緒に作ったりしています。食器拭きも手伝っていただいています。	さんご館では、飯椀・箸を個別とし、間違えないように名前入りで写真として掲示するなど、本人の好みを重視している。以前はできたことも無理強いすることなく、できることを見つけて手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(主食と副食)や水分摂取量をチェックして、不足にならないよう声掛けの工夫をして支援しています。お茶の苦手な方はスポーツドリンクに替えて提示しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助・見守りをしています。「できることは自分で、いきとどかないところは介助」しています。また、義歯の洗浄剤の管理も入居者様に合わせて介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で立てない方(車いす)でも、職員2人介助でトイレで排泄できる機会を作っています。	一目でわかる日々の排泄チェック表を使い、トイレ誘導を行っている。機能維持だけでなく意欲向上につながるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各入居者様の便の状態を見て、水分を補ったり食物繊維(ファイバー)を足してみたり、歩く運動を取り入れたり工夫をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴について拒まれる時は、順番を変えてみるとか興味を引く物で誘ってみるとか翌日に延ばしてみるなどタイミングをみています。入浴は毎日午後の時間(13:30~16:00)になっています。	浴湯は利用毎に替え、新しいお湯で気持ちよく入浴してもらっている。また時には下の通所施設の大きい浴槽で、気分を変えての入浴も行っている。週2回は入浴してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドで休まれる方もいますが、自宅にいたときから床に布団を敷いて休まれる方もいらっしゃいます。一緒に布団の上げ下げをしています。時々ソファでうたたねをされていますが皆そっとしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	経験の浅い職員(6か月未満)はまだ副作用について十分に知識があるとは言えませんが、確実に正確に服薬できるよう見守り介助しい身体状況の変化に注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	政治的活動をされていた方は「先生」と呼びし昔の話をしていただいたりハーモニカ演奏をしていただいて、唄の上手い入居者様に歌っていただいたりしています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「買物に出かけたい」「見に行きたい」等の声を聴き近くのスーパーや盆踊り、他グループホームのお祭りに行ける様に支援してきました。(しかし、お祭り・盆踊りは当日の雨で行けませんでした) どんど焼きは毎年出かけます。	近くのコンビニに出かけたり、移動図書館で本を借りたりと本人の希望に合わせた支援を行っている。近くにある回転寿司への外出は楽しみ事の一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「買物に出かけたい」方は、自分で管理していただいて払う時も自分で支払っていただいています。職員は見合った金額を出してお釣りを受け取っているかの見守りをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと希望された時に、すぐに対応して電話を掛ける介助をしたり、年賀状の整理をして返信できるように声かけしたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓際にソファがありますので、強い光に当たらないようにブラインドで調節したり、懐かしの歌謡曲(昭和20~40年頃)の曲を常に流しています。また、お雛様・五月飾り・お月見・クリスマス等の各月の節句に合わせて飾り付けを入居者様と行っています。室温や湿度は1日2回見て調整しています。	デイルームは入居者もモップがけを手伝ってくれるなど、手入れの行き届いたフローリングであり、その中間にある畳の空間は、洗濯物たたみやちょっとした休憩にと心癒される場所となっている。懐メロをBGMにしたり、パワートレーナー機器を置くなど居室にこもらないように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前で過ごしたり、ソファで新聞を読んだり、畳の場所で一緒に洗濯物をたたんだりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具やベッドを用意していただいています。可愛がっていたペットの写真を飾ったり、仏壇を持ち込みされている方もいらっしゃいます。	仏壇を持ち込んでいる方もいて、以前は法要をしたこともある。ベッドだけでなく布団も使用し、布団を上げるという習慣を続けている方もいる。冬場は要望に合わせ湯たんぽを利用するなど、室温に頼りすぎない耐寒対策を立てている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー作りになっていますので、玄関から出入り浴時の移動など自分の力でできるようにしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム ユニティー旭神		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	平成26年1月2日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「こはく館 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902504-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念を周知、掲示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等の催し物へ参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々への勉強会講習会等は積極的に行っていませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成25年度は開催できず取り組みの報告・相談の機会がありませんでした。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	旭川市の指導監査課に問い合わせをして必要な手続きの相談をしたりして協力していただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については委員会を設置し、会議を開催してどのようにしたら施錠しなくても安全に見守れるか検討しています。ご家族にも拘束をなくす取り組みについて説明をしています。マニュアルがありいつでも見られます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止も委員会を設置し会議を開催しています。その議事録を職員に回覧し周知しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域開催の権利擁護や成年後見人制度の研修会の案内を職員に回覧しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約1件あり、パンフレットや契約書・誓約書・同意書等を2～3時間程かけて説明し、質問を受けながら行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様との日頃の会話やご家族の面会時での会話等での意見・要望をミーティングで話し合いを行なっています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ユニット会議を行い話し合いをしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6月・11月に人事考課(面談)を行い勤務環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(3ヶ月・1年・3年・主任・管理者)を行なっています。外部研修は内容を回覧し参加できるようにしています。平成25年度は勉強会を2カ月に1回かいさいしてケアプランや食事介助・事故防止の学習をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームでの合同の勉強会(交流)を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者様には日々の変化や状況を職員間で共有出来るよう記録を工夫し、コミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の変化等を面会時や電話連絡時に報告し日々の状況がわかるようにし、要望等があれば職員間で共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後に精神的・身体的状況の変化をみて介護計画に反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事の把握し洗濯物たたみ、床のモップ掛けやゴミ出し、食事の盛り付け等を分担し手伝って頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時等に普段の様子をお伝えし、ご家族の考えを伺い相談しながらケアの方向性を見極めていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より通院していた病院の通院介助を行なっていて、ご家族の協力を得て受診時に馴染みの方と逢えるように待ち合わせをしています。また、友人等の面会時には居室内でゆっくりと過ごせるように配慮しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士認知症の理解が出来ない時はスタッフが間に入りコミュニケーションのとれるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様のご家族が季節の野菜等を持ってきてくれたりし、当時の入居者様と昔話をする等の関わりがあります。「ここに来るのが嬉しいのです」との事		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度声かけは行なっていますが本人の希望を優先し案内しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況についてはセンター方式の一部を利用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の一日の過ごし方については毎日の記録に残し、年月の経過と共に身体的状況をセンター方式の「できることできないこと」シートに記入しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、意見を尊重し家族と話し合いながら3ヶ月毎に計画を見直し、ミーティングでも話し合いをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を中心にスタッフ間で情報を共有し、ミーティングで話し合いを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴はホーム内だけでなく、ディサービスの大浴場や特浴を使用し温まって頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動の町内清掃に入居者様が参加されたり町内の会館に来られる移動図書館を利用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診介助を行なっています。また医療連携の病院を確保しており、入居者様の訴えや変化が見られた場合は連絡を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているので、排便状況や傷、体調に変化があった時は看護師に伝え、家族への連絡や病院の手配などを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師により介護添書を作成し情報提供して、ご家族と連絡を取りながら面会に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時には看護師から今後の方向性をご家族と相談しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加したり、非常時対応マニュアルを用意しています。また、AEDを設置していますのでその使い方を年2回学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定した避難訓練や、車椅子の入居者様の布団や毛布を遣って階段を下りる避難方法を訓練しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの入居者様に応じてプライドを傷つけないように思いやりのある言葉かけを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意見を聞き、自己選択、自己決定できるように声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてスタッフ側の都合にならないように声掛けを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、ご家族の希望に合わせて訪問理容を行ったり外出時には普段と違う洋服を選んでもらったりしています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話を通して好みの食べ物を聞いたり、食事の盛り付けのお手伝いをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量、水分量を表に付け、体重の増減により食事量の調整を行いバランスの取れるようメニューを考えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い仕上げ磨きの介助等を行っています。週2回の義歯洗浄も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄が出来るように、時間をみて声掛けを行っています。また本人の希望を聴き心配な時はパットを使用します。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や、歩行の声掛けをし体を動かすように声掛けを行っています。水分量をみたり野菜ジュースの提供をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を聞き週2回以上入浴できるように案内しています。車椅子の入居者様でも安全に入浴できるように特浴の案内もしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は居室の戸を閉めて休まれており、ホール等も消灯しフットライトにしています。日中の休まれる時は希望によりカーテンも閉めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書をファイルにし見やすいようにしています。薬の変更時は、ケース記録に記載し情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望でのお買い物の代行や、飲酒できる方には日曜日や祝日にお酒を提示しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望で移動図書館への外出や、ご家族との外出が出来るように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームで預かるお小遣いの他に、ご家族の希望もあり本人の管理するお小遣いもあり見守りながら使用できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でご家族への電話連絡をできるようにしています。希望があれば手紙を投函できるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節の飾り物や写真を掲載し、雑誌等もいつでも見れるようにマガジンラックを用意しています。ソファも用意しゆっくりとできるようにしています。1日2回温度、湿度を測り換気や加湿を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や普段座っている席が決まっているほうが安心される入居者様が多いため席は決めていますが、定期的に席変えをし入居者様同士が交流できるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安心してできるように普段から使用されていた家具や、好みのカレンダー、写真を貼れるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の入居者様が多い為、自操時に移動しやすいように通路には移動しやすいように物を置かないようにしています。歩行練習やトイレ、入浴時に手すりに掴まれるように配慮しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ユニティー旭神

作成日：平成 26年 2月 14日

市町村受理日：平成 26年 2月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域密着型サービスとして、事業所・職員・地域が成長していくために運営推進会議は不可欠なものである。行事予定に組み込む等定期的に開催し、支えられ上手なグループホームになるように。	運営推進会議を概ね2カ月に1回開催し、ご家族や地域の方々が気軽に参加できるようになる。	・運営推進会議開催は偶数月を予定として、ご家族に議事録を配布して関心を高めていきます。 ・レクレーションや行事に合わせた日時の調整をします。	1年
2	35	火災だけでなく、地震・停電時などの不測の事態にすぐ対応できる支援体制が必要であり、その為の話し合いや備蓄品の準備などに取り組まれるように。	水や非常食を備蓄し、冬季の停電時の備えとして暖をとれるよう準備をする。	2日分の飲料水(ペットボトル)と非常食を備蓄し、年2回の消防訓練時には食事の模擬体験をして非常時に備えます。 冬季の停電時対策として毛布の他、カセット式暖房機を用意します。	3カ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。